

全国高校総合体育大会(インターハイ)は27日、秋篠宮ご夫妻を迎えて鹿児島市の鹿児島県アリーナで総合開会式が行われた。「響かせろ 我らの魂 南の空へ」をスローガンに、8月20日まで南部九州4県(鹿児島、熊本、宮崎、沖縄)を中心に31競技が実施される。27日は7競技が行われ、サッカー男子の徳島市立が2回戦でPK戦の末



第1日

に帝京大可児(岐阜)を破り、県勢としては2007年の徳島商以来12年ぶりに3回戦進出を決めた。ホッケー男子の阿南光は1回戦で沼宮内(岩手)に1-4で敗れた。相模団体の名西は予選で3連敗となり敗退した。個人ではソフトテニス男子でつるぎの太石翔梧・野口直樹組が5回戦で敗れ、16強を逃した。

# 徳島市立 16強 男子

【サッカー】

2試合連続でPK戦を  
制し、3回戦進出を決めた徳島市立。勝利が決まった瞬間、選手たちは抱き合ったり喜びを分かち合ったり。持ち前の勝負強さが光り、目標の8強入りが、目標の8強入りまであと1勝に迫った。7人目までもつれこん

【男子】2回戦  
徳島市立 0-0-0-0  
徳島 0-0-0-0  
PK 5-4

2試合連続でPK戦を  
制し、3回戦進出を決めた徳島市立。勝利が決まった瞬間、選手たちは抱き合ったり喜びを分かち合ったり。持ち前の勝負強さが光り、目標の8強入りが、目標の8強入りまであと1勝に迫った。7人目までもつれこん

試合は前後半70分を終えて0-0。2人ばかりで寄せるディフェンスを徹底し、攻撃力の高い相手を封じた。一方、攻撃面は2試合連続で無得点。阿部主将は「70分間に1点を取って勝ち切るプランだったが、できなかったのは反省点」と課題を挙げた。8強入りを懸けた3回戦の相手は、昨冬の全国選手権前の遠征で対戦した際は敗れたものの、2度の接戦を制して自信を付けた選手らに弱気は見えない。「目標を達成するチャンスが目の前にきた。全員でつかみ取る」と阿部主将。伝統の「市高ブルー」が勢いづいている。

## 連日の接戦制し自信

(石津 遼)



1戦・帝京大可児対徳島市立 前半、左サイドから攻め上がる徳島市立の木村⑨—沖縄県北谷公園陸上競技場